

今日のトピック 豪州の金融政策は16会合連続の据え置き（2018年2月） 目標値に向け緩やかなインフレ加速を想定

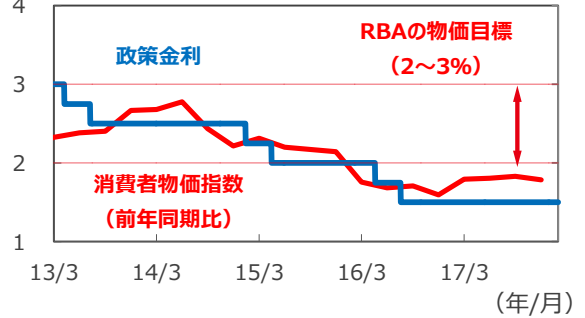
ポイント1 金融政策は現状維持 予想通り1.50%で据え置き

- 豪州準備銀行（RBA）は2月6日に開催した金融政策決定会合で、市場の予想通り政策金利を1.50%に据え置く決定をしました。
- 据え置きは16会合連続です。ブルームバーグ社の集計によれば、対象28名のエコノミスト全員が据え置きを予想していました。

ポイント2 当面、金利は据え置きへ 経済はRBAの想定に沿った展開

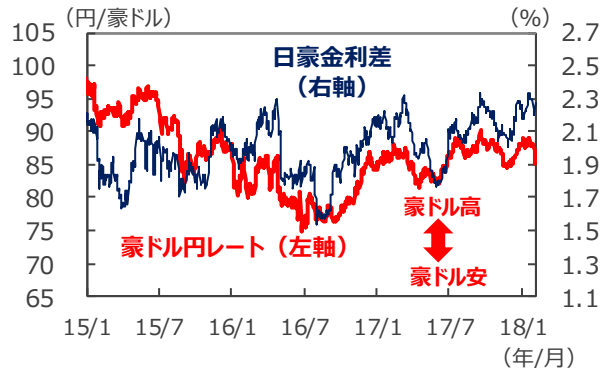
- RBAは、豪州経済について、民間消費は依然として伸び悩んでいるものの、企業を取り巻く環境は良好と評価しました。今後も、非資源企業の設備投資の持ち直しが見込まれるうえ、インフラ（社会資本）投資の拡大が予想されること等から、豪州経済の成長率は3%程度まで加速すると見ています。
- 一方、インフレは直近2017年10-12月期で前年同期比+1.8%と、依然としてRBAの目標値の下限である+2%を下回っています。しかし、RBAは「景気の拡大に伴い、インフレは2018年中に目標レンジに到達する」との見方を据え置きました。
- 景気、物価に関するRBAの評価に大きな変化はなく、金融政策は当面、現状維持が予想されます。

(%) 【消費者物価指数と政策金利】



(注) 消費者物価指数は2013年1-3月期～2017年10-12月期。消費者物価指数は異常値をつけた項目を除外したトリム平均値。政策金利は2013年3月31日～2018年2月6日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【豪ドル円レートと日豪金利差】



(注1) データは2015年1月2日～2018年2月5日。ただし、為替の直近値は2018年2月6日13時30分時点のもの。
(注2) 金利差は豪州－日本。金利はともに3年国債利回り。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 豪ドルは落ち着きどころを探る展開へ

- 足元の豪ドルの対円相場は、世界的な株安の影響によるリスク回避の動きの強まり等から軟調な展開となっています。当面は、神経質な動きが続くことが予想されます。
- ただ、資源価格の持ち直しや、日本と豪州の金融政策の方向性の違い（日銀は金融緩和姿勢を維持、RBAは据え置きの見通し）等を踏まえると、豪ドルは次第に落ち着きを取り戻すと見られます。

ここもチェック! 2018年1月30日 原油価格の動向（2018年1月）
2018年1月24日 雇用の拡大が続く豪州経済（2018年1月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。